

感性デザイン学科のコラボ活動

宮腰 直幸[†]・坂本 禎智^{††}・小嶋 高良^{†††}・高橋 史朗^{††††}・川守田 礼子^{†††††}・横溝 賢^{††††††}・
安部 信行^{†††††††}・岩崎 真梨子^{††††††††}・関川 浩志^{†††††††††}

Collaborative Design Activities with Local Companies and Organizations: a Brief History of the Approach of Department of Kansei Design

Naoyuki MIYAKOSHI[†], Yoshinori SAKAMOTO^{††}, Kouryo KOJIMA^{†††}, Fumiaki TAKAHASHI^{††††},
Reiko KAWAMORITA^{†††††}, Ken YOKOMIZO^{††††††}, Nobuyuki ABE^{†††††††}, Mariko IWASAKI^{††††††††}
and Hiroshi SEKIKAWA^{†††††††††}

ABSTRACT

Department of Kansei Design at Hachinohe Institute of Technology has been putting a stress on the cooperative designing activity with companies and organizations in Hachinohe and its neighboring area as one of its social responsibilities to contribute to local community. A large number of the students have voluntarily participated in the “collaboration projects,” and achieved fruitful results. Each project provides the students with a precious opportunity to learn the designing process firsthand. In this brief paper, we will show the history of the collaboration and review several specific projects in which the students made a remarkable success.

Although the number of the design project already implemented is more than 50, there are some problems to be solved. For example, the department needs to protect the intellectual property of the students appropriately and prevent the collaboration from being criticized as an oppression of private business. We will discuss what should be done to allow the students to support and contribute to local community and economy constantly.

Key Words: *design collaboration, contribution to local community, intellectual property*

キーワード: コラボ活動, 地域貢献, 知的財産権

平成 26 年 1 月 8 日 受付

[†] 感性デザイン学部感性デザイン学科・准教授
^{††} 感性デザイン学部感性デザイン学科・教授
^{†††} 感性デザイン学部感性デザイン学科・教授
^{††††} 感性デザイン学部感性デザイン学科・准教授
^{†††††} 感性デザイン学部感性デザイン学科・准教授
^{††††††} 感性デザイン学部感性デザイン学科・准教授
^{†††††††} 感性デザイン学部感性デザイン学科・講師
^{††††††††} 感性デザイン学部感性デザイン学科・助教
^{†††††††††} 元感性デザイン学部感性デザイン学科・准教授

1.はじめに

八戸工業大学感性デザイン学部感性デザイン学科(以下、本学科)は 2005 年 4 月に当時北東北唯一のデザイン系学科として開設された。本学科の狙いはデザインを通してコミュニケーション力を養い、ハイクラスのビジネスパーソンを育成することであった。2009 年にはカリキュラムの改定を行い、ビジュアルデザインコースと住環境デザインコースの 2 つのコースを設定し、地域のデザインニーズに対

応じた人材の育成を行える内容を持つ学科となった。本学科は北東北唯一のデザイン系学科ということもあり、近隣の企業などから、デザインの業務を期待する声も多かった。特に学生の若く新しい感性に期待する声は大きく、本学科としても依頼に応えるための受け入れ体制を検討した。最初の企画は地元の文房具・事務機器販売を行う株式会社金入(以下、金入)と地元の酒造である株式会社桃川(以下、桃川)からの依頼であった。以降、2013年までの5年間で50件を超える依頼があり、現在もいくつかの業務を実施している。本学科ではこの活動をコラボ企画と呼んでいる。

2. コラボ企画の概要

学科の開設以降、近隣の企業など業務依頼が多く寄せられていたが、本学科ではこれら業務の受け入れ体制は十分ではなかった。過去には八戸圏域水道企業団からの依頼に対して授業の中で業務依頼を実施したことはあった(写真1)が、継続的に業務依頼を実施できる状態ではなかった。そこで2009年に学生募集などを担当するWGにて依頼業務の実施形態を検討した。既存のカリキュラム内でこうした依頼業務を行うにはいくつかの問題点があった。

1. 業務依頼のある時期は不定期であり、また〆切も授業のスケジュールとは一致しないことが多い。そのため半期の授業の中に組み込むことは難しく、企画以外の時間の活用に問題がある。前年度中にシラバスを作成することも難しい。

2. 既存の科目の中で実施すれば特定の学年しか企画に参加できず、学生に公平な機会が提供できない。また全学年が参加できる授業は存在しない。

3. 依頼団体の要求と授業の目標が異なれば制作の目的と成績評価が異なることになる。学生には依頼団体の要望に沿う様に指導をする一方で、



写真1 八戸圏域水道企業団とのコラボ活動の成果

成績評価につながらないという事態が発生しかねない。

4. 授業を受けている学生全てが参加することになると参加を希望しない学生の作品も提出せざるを得ない。そうした作品を依頼団体に提出するのは依頼団体、学生双方にとって不本意である。

一方で、業務依頼は学生が今まで学んできた授業の成果を活かし、自分たちのスキルを実社会で試す絶好の機会である。在学中に本格的にデザイン業務の一部に関わる経験が得られることから参加を希望する有志でこうした業務依頼に応えることとした。コラボ企画を実施するにあたり本学科が開設された時より活動していた感性デザイン研究会に協力を依頼し、感性デザイン研究会が業務依頼を受け、教員がサポートする形で企画を進めることとした。

企画の実施にあたっては、学生にとって貴重な学習の機会ということもあり当初無償にて実施していたが、民業圧迫の懸念などの指摘から、現在では企画実施のための経費を請求している。

表1 これまでに実施したコラボ企画(No.01-19)

企画 No.	企画名称	形式	内容	実施期間	作品数	参加人数
01	八戸市制 80 周年記念てぬぐいデザイン	主催団体より依頼	日本手ぬぐいのデザイン	2009/9 - 2009/10	48 作品	21 名
02-1	桃川干支ラベルデザイン(寅)	主催団体より依頼	正月用日本酒のラベルデザイン	2009/9 - 2009/10	15 作品	12 名
02-2	桃川リキュールラベルデザイン	主催団体より依頼	リキュールのラベルデザイン	2009/9 - 2009/10	20 作品	15 名
03	街頭看板デザイン	主催団体より依頼	街頭に掲示される看板のデザイン	企画中止	21 作品	18 名
04	パンパママふあいと協会 HP コンテンツ制作	主催団体より依頼	Flash アニメーションの制作	1900/1 - 1900/1	2 作品	4 名
05	津軽伝統工芸+craft デザイン アイディア	一般コンペへの応募	伝統工芸を利用したアイデアコンペ	2010/1 - 2010/4	9 作品	9 名
06	バス企画乗車券広報ポスターデザイン	主催団体より依頼	バスの企画乗車券周知のためのポスター制作	2010/2 - 2010/4	36 作品	31 名
07-1	サークル K サックス商品開発・販促物デザイン(イカめしおにぎり)	主催団体より依頼	サークル K サックスの商品開発・販促物デザイン	2010/4 - 2010/4	13 作品	10 名
07-2	サークル K サックス商品開発・販促物デザイン(げんこつからあげ、ナポリタン、天つり、CM)	主催団体より依頼		2010/4 - 2010/12	17 作品	12 名
07-3	サークル K サックス商品開発・販促物デザイン(W バーガー、焼きそば、いちご煮おにぎり、天つり、CM)	主催団体より依頼		2010/4 - 2010/12	21 作品	21 名
08	八戸市景観賞ポスターデザイン	一般コンペへの応募	八戸景観賞への応募を呼びかけるポスターの制作	2010/4 - 2010/9	5 作品	5 名
09	桃川リキュールラベルデザイン	主催団体より依頼	新製品のラベルデザイン	2010/3 - 2010/4	10 作品	8 名
10	感性デザイン学科 Web サイト Flash コンテンツ制作	学科内コンペ	学部トップページの Flash 制作	2010/7 - 2010/12	5 作品	5 名
11	八戸工業大学看板デザイン	主催団体より依頼	大学の看板デザイン	2010/7 - 2010/7	17 作品	17 名
12	国際交流協会 HP デザイン	主催団体より依頼	主催団体のブログのデザイン	2011/1 - 2011/2	-	-
13	桃川ラベルデザイン(卯)	主催団体より依頼	正月用日本酒のラベルデザイン	2010/10 - 2010/12	12 作品	12 名
14	七戸バスラッピングデザイン	主催団体より依頼	新幹線開業に合わせた電気バスの外装デザイン	2010/11 - 2010/12	13 作品	11 名
15	パティオ 13 プロジェクト	主催団体より依頼	街路のペイント	2011/7 - 2011/7	6 作品	10 名
16	大久保町擁壁デザイン	主催団体より依頼	町内 Y 字路にある擁壁の壁画デザイン	企画中止	3 作品	3 名
17	津軽うるおい 漆デザイン案	一般コンペへの応募	津軽塗りの漆器の外装デザイン	2011/4 - 2011/10	20 作品	13 名
18	学部トップページ Flash2011	学科内コンペ	学部トップページの Flash 制作	2011/4 - 2011/6	5 作品	5 名
19	八戸市景観賞ポスターコンペ 2011	一般コンペへの応募	八戸景観賞への応募を呼びかけるポスターの制作	2011/5 - 2011/7	12 作品	12 名

表1 これまでに実施したコラボ企画(No.20-38)

企画 No.	企画名称	形式	内容	実施期間	作品数	参加人数
20	カネイリ手ぬぐいデザイン 2011	主催団体より依頼	日本手ぬぐいのデザイン	2011/6 - 2011/9	48 作品	30 名
21	プライフーズ社名ロゴデザイン	主催団体より依頼	新会社の社名ロゴデザイン	2011/12 - 2012/1	35 作品	32 名
22	パバママふぁいと協会 FLASH	主催団体より依頼	Flash アニメーションの制作	企画中止	-	-
23	桃川千支ラベル(辰)	主催団体より依頼	正月用日本酒のラベルデザイン	2011/7 - 2011/10	20 作品	16 名
24	陸奥市川駅ポスターデザインコンペ	主催団体より依頼	陸奥市川駅活性化のためのポスターデザイン	2011/11 - 2011/12	10 作品	9 名
25	照明器具チラシデザイン	主催団体より依頼	桜総業の照明器具のチラシデザイン	2011/12 - 2012/1	2 作品	2 名
26	野生動物医学会ポスターデザイン	主催団体より依頼	北里大学で開催される野生動物医学会のポスターデザイン	2011/12 - 2012/4	7 作品	7 名
27	上大久保町内会ハザードマップ作成	主催団体より依頼	上大久保町の防災ハザードマップの作成	2012/4 - 2013/3	1 作品	6 名
28	八戸市景観賞ポスターコンペ 2012	一般コンペへの応募	八戸景観賞への応募を呼びかけるポスターの制作	2012/5 - 2012/7	3 作品	3 名
29	オープンキャンパスデザイン	主催団体より依頼	2012 年度の八戸工業大学のオープンキャンパスの会場および印刷物などのデザイン	2012/4 - 2012/7		
30-1	静岡屋商品パッケージデザイン	主催団体より依頼	オリジナルふりかけ用ブランドロゴおよびパッケージデザイン	2012/6 - 2012/10	8 作品	10 名
30-2	マルカネパッケージデザイン	主催団体より依頼	対面販売用販促物デザイン、商品ラベルデザイン、POP デザイン	2012/6 - 2012/11	18 作品	9 名
31	YAMAKO 八戸サイトポスター	主催団体より依頼	求人ポスターの制作	2012/6 - 2012/8	4 作品	4 名
32	2012 学園祭ポスター制作	主催団体より依頼	2012 年度の学園祭のポスター、チラシ、パンフレットの原案デザイン	2012/7 - 2012/10	1 作品	4 名
33	桃川千支ラベル(巳)	主催団体より依頼	正月用日本酒のラベルデザイン	2012/7 - 2012/9	20 作品	14 名
34	自転車用照明器具デザイン	主催団体より依頼	自転車搭載型の LED ライトデザイン	2012/7 - 2012/7	4 作品	9 名
35	八戸圏域水道企業団ペットボトルデザイン	一般コンペへの応募	水道企業団から発売予定の 3 つのミネラルウォーターのラベルデザイン	2012/8 - 2012/9	3 作品	2 名
36	自転車用音声ナビデザイン	主催団体より依頼	観光用自転車に搭載する音声ナビ端末のデザイン	企画中止	4 作品	4 名
37	ADAC ロゴデザイン	主催団体より依頼	あおもりデジタルアーカイブ・コンソーシアムの名刺などに使用するロゴのデザイン	2012/10 - 2012/11	6 作品	4 名
38	福満楼店舗デザイン	主催団体より依頼	中華飲食店の店舗内装デザイン	企画中止	-	-

表1 これまでに実施したコラボ企画(No.39-52)

企画 No.	企画名称	形式	内容	実施期間	作品数	参加人数
39	潮観荘 CG 作成	主催団体より依頼	種差展にて使用する建物CG およびアニメーションの作成	2013/4 - 2013/7	1 作品	4 名
40	卒業制作・論文要旨集表紙デザイン	学科内コンペ	学科の卒業制作・論文要旨集の表紙デザインの作成	企画中止	1 作品	1 名
41	学部トップページ Flash2012	学科内コンペ	学部トップページの Flash 制作	企画中止	-	-
42	シャドーロゴデザイン	主催団体より依頼	企業のロゴマークのデザイン	2013/3 - 2013/4	9 作品	5 名
43	蓮ロゴデザイン	主催団体より依頼	企業のロゴマークのデザイン	2013/5 - 2013/5	10 作品	10 名
44	八戸景観賞ポスターコンペ 2013	一般コンペへの応募	八戸景観賞への応募を呼びかけるポスターの制作	2013/4 - 2013/5	2 作品	2 名
45	カネイリ手ぬぐいデザイン 2013	主催団体より依頼	日本手ぬぐいのデザイン	2013/5 - 2013/6	46 作品	23 名
46-1	おいらせ町壁面アート(桃川)	主催団体より依頼	市街地活性化のための壁面アートの制作	2013/6 - 2013/9	5 作品	5 名
46-2	おいらせ町壁面アート(カワヨ)	主催団体より依頼	市街地活性化のための壁面アートの制作	2013/6 - 2013/9	6 作品	5 名
47	桃川千支ラベル(午)	主催団体より依頼	正月用日本酒のラベルデザイン	2013/6 - 2013/9	27 作品	21 名
48	太子食品ジオラマ制作	主催団体より依頼	工場に設置するジオラマの制作	企画実施中		
49	2013 学園祭ポスター制作	主催団体より依頼	2013 年度の学園祭のポスター、チラシ、パンフレットの原案デザイン	2013/7 - 2013/10	3 作品	3 名
50	天恵ぶどうの木パッケージデザイン	主催団体より依頼	パン、ハンバーグのラベル、パッケージデザイン	2013/10 - 2013/12	2 作品	2 名
51	八戸あおば高校学院校章デザイン	主催団体より依頼	学校の校章デザイン	企画実施中		
52	八戸液化ガスホルダーペイント	主催団体より依頼	ガスホルダーの外装ペイント	企画実施中		

3.これまでに実施してきたコラボ企画

これまでに実施してきた企画を表1に示す。2009年より4年間で50件を超える企画を実施してきた。依頼は地元企業、役所や団体など様々であり、企画の形態も直接依頼があったものや一般のコンペに参加したもの、学内での業務など多岐にわたる。

ここでは代表的な企画の概要を紹介する。コラボ企画では学生が制作した作品すべてを依頼団

体に引き渡している。これは学生に公平な採用機会を与えるため、事前に教員の側で制限をすべきではないという考えに基づくものである。なお本文中に書かれる学年や肩書はすべて企画実施時のものである。

3.1 八戸市制 80 周年記念手ぬぐいデザイン

この企画は八戸市が市政が 80 周年を迎えたことを記念して金入が企画したものである。金入は以前よりアイスホッケーや三社大祭をモチーフにした日本手ぬぐいを制作、販売している。

本学科としても最初のコラボ企画であり、試行を兼ねて実施した。コラボ企画の実施に先立ち、金入の副社長金入健男氏と学科の担当者で打ち合わせを行い、著作権は譲渡するが就職活動などで学生が自分の作品を公開することについては以降全てのコラボ企画で確認をしている。

この企画は2009年9月から10月にかけて実施された。企画開始時にはキックオフを実施し、金入氏より日本手ぬぐいの製法や染め方のレクチャーがあった。それに続き学生からの質疑を行い、依頼団体の担当者である金入氏と学生とのコミュニケーションの場を設けた。また金入氏からはデザインの条件として1.県外に八戸をアピールするものであること、2.地域の若者に伝統を意識させること、の2点が提示された。この企画には21名の学生が参加し、48作の作品が提出された。結果、最優秀賞が2年生の葛西、他5点を受賞となった(図1)。最優秀賞の葛西の作品は製品として制作、販売された。以降、手ぬぐいデザインの企画は2年に一度実施しており、これまでに3度製品化されている。



図1 手ぬぐい採用作

3.2 桃川干支ラベル

この企画は桃川が毎年年末に発売する、次年度の干支にちなんだ日本酒のラベルをデザインするもので、これまでに5回実施された。第1回目のキックオフは2.1の金入の企画と同日に実施した。桃川からは、若者の日本酒離れが進んでいることに対する懸念から若者にアピールできるデザインが求められた。企画内容は印刷物



図2 干支ラベル採用作

のデザインであり、感性デザイン学科の授業内容を活かせるものである。キックオフでは印刷物の基本事項がレクチャーされた。

企画には12名の学生が参加し、15作の作品が提出された。桃川による審査の結果、1年生の守田が採用、他2名が受賞となった(図2)。

3.3 上大久保町内会防災マップ

この企画は2012年4月から2013年2月にかけて安部研究室の学生を中心に、4年生から2年生まで5名の学生が参加して実施したものである。防災マップ作成のため、既存のマップを元に現地調査を実施し、避難経路、危険箇所の把握、緊急車両の通行などの把握を行った。現地調査で得た情報を元に防災拠点用マップと家庭用マップの2種のマップを作成した。拠点用マップは透明なシートを白地図の上に重ねる形式とし、非常時においても必要な情報を取捨選択できるものとした(図3)。家庭用マップはピクトグラムを新たに作成し、災害時に必要な備品などを見分けやすくする工夫をしている。両マップとも



図3 完成した防災マップ及び家庭用マップ

色弱者にも利用しやすいようにカラーユニバーサルデザインの考え方を取り入れデザインしている。この活動ではマップをデザインするとともに町内会の防災訓練にも参加し、マップの有用性についても検証した。

3.4 自転車用 LED ライト

この企画は 2012 年 7 月に八戸に工場を持つ株式会社ミナミより依頼があり、新たに販売する USB 付き自転車用 LED ライトの外観およびロゴマークをデザインしたものである。〆切までの時間が大変短くキックオフは行っていない。そのためこれまでにコラボ企画に参加したことのある学生を中心に参加者を募った。この企画を実施した前後に大学で知的財産権についての検討が始まり、この企画では試験的に知的財産権について文書化を行っている。1 週間という期間の中でデザインされたもののうち 1 点が採用され、製品化された(写真 2)。デザインは 5 名の学生が関わっており、権利譲渡は学生から大学へ、さらに大学から企業へ知的財産権を譲渡する形で行った。



写真2 自転車用LEDライト

3.5 太子食品ジオラマ作成

この企画は太子食品から、同社の日光工場に設置するジオラマを作成したいとの依頼がありスタートしたものである。太子食品は豆腐や納豆など大豆を原料とする食品を主に生産しており、北海道に広大な大豆の畑をもっている。工場を訪れる観光客にアピールするために、北海道の豊かな自然をイメージしたジオラマを作成することがこの企画の目標である。企画を進めるにあたり、北海道の農場や日光の工場の視察を行



写真3 北海道農場視察

い(写真 3)、また勉強会を行いながら企画を進めるなど、これまでのコラボ企画にはない活動形態をとっている。今後のコラボ企画の進め方を模索する上で参考になると思われる。現在も企画は進行中である。

4. コラボ企画の問題点

50 以上の企画を検討、実施してきたコラボ企画だが、回数を重ねることで様々な問題点が明らかになってきた。

4.1 知的財産に関する事項

当初、著作権を譲渡することで依頼団体がデザインしたものを自由に活用できるようにする一方、学生が就職活動で自分のデザインを自由に使用できるということのみを念頭においていたコラボ企画だが、著作権法やその他法律に照らし合わせると現在の方法では不足であることが明らかになってきた。一部の企画で結んだ契約についても、その内容はより精査が必要である。

特にデザインの著作権は、工学部とは異なり著作の対象となるものが教員の指導に依らない場合が多い。このため知的財産に関する契約も異なったものとなるが、発生する事態に対応するには事例が不足している。

学生の権利を守りつつ、企業の業務依頼に応えることはデザイン系の他大学でも問題となっており、今後も企画を重ねながら検討してゆくことが必要である。

また、依頼団体に引き渡した後のデザインの活用についても検討が必要である。著作権の譲渡を行い依頼団体がデザインを活用できるよう

にしているが、譲渡したものの改変や二次利用、公開については明確に契約はしておらず、双方で意識が異なっている場合がある。学生の著作権を守るためには権利関係を明らかにしておくことも必要である。

4.2 参加学生の減少

コラボ企画を開始して4年が経過し、様々な企画で受賞する学生が固定化されつつある。コラボ企画には自身の作品を作るという意義があるが、学生にとって挑戦する意味合いが薄れてきていることも事実である。また、学生の意識も変化しつつあり、かつては腕試しの機会として挑戦していたものが、授業や課題の合間など時間があるときに参加するものとして捉える学生が増えている。最近の企画では参加学生が減少し、作品が揃わない事態も発生した。取り組み方について検討し直すことが必要になってきている。

4.3 学習機会と民業圧迫

大学のデザイン系学科とはいえ、学生の技術は本格的な業務に足るレベルではないと考え、依頼団体には無償である代わりに学生への学習

機会の提供という点について理解を求め、作品レベルの低さについては承諾を得ていた。北東北の企業や団体は未だ積極的にデザインに費用をかける意識は薄く、有償化すれば依頼される企画が減少し、学生の学習機会が失われる懸念があった。

一方で、大学のような公共機関がデザイン業務を行うことで他の民間企業の業務を圧迫する懸念から、学習機会を確保しながら権利の対価を正しく評価し、地域にデザイン活動を根付かせるためには、依頼団体に対し企画の意義について理解を得た上での契約が必要だと考える。

5.まとめ

本学科では地域のデザインに対する需要に応え、学生のスキルアップの機会としてコラボ企画を行ってきた。4年間で50を超える企画を実施し、多くの製品を地域に提供することができた。北東北唯一のデザイン系学科として地域にもある程度学科の名前と活動は浸透したのではないかと思う。一方で活動の形態を見直す時期にも差し掛かっており、これまでの経緯から問題点を整理し活動の方法を検討することが必要である。

要 旨

八戸工業大学感性デザイン学科では、地域コミュニティへ貢献する社会的責務の一つとして、八戸及びその近郊にある企業や団体と協調してのデザイン活動に力を注いできている。多くの学生が自主的に「コラボ活動」へ参画し、実りある成果を上げてきた。また、それぞれのプロジェクトは、いずれも実践的にデザインプロセスを学ぶ貴重な機会となっている。本小論は、コラボレーションの歴史を概観するとともに、学生たちが活躍したいくつかのプロジェクトを振り返るものである。

すでに実施されたプロジェクトの数は50件を超えているが、なお解決すべき課題もある。例えば、学科は学生の知的財産を適切に保護するとともに、民業を圧迫しているとの批判を回避する必要がある。本稿では、学生が今後も継続的に地域社会と地域経済をサポートしまたそれらに貢献することが可能となるために、何がなされるべきかについて考察する。

キーワード: コラボ活動, 地域貢献, 知的財産権